

平成 25 年度「卓越」補助金 論文作成支援報告書

楊 力 (中国)

題目：1920 年代中国における女性知識人の葛藤——『女生・婦人』をめぐって

要旨：本稿では、1920 年代北京女子高等師範学校の在校生である程俊英が口述し、作家の蒋麗萍が書き直した自伝的長編小説『女生・婦人』における登場人物の玲玉と、玲玉の主人の愛人である柳蝶依の人物像を考察することにより、清末民初の中国における女性知識人の「性」をめぐる苦悩を呈示した。玲玉の主人はアメリカに留学した経験があり、玲玉は伝統的士人の出身を持っていたため、一見伝統的な考えを持つ中国婦人と欧米の近代的な考えを持つ男性の間にある溝に見える構図だが、その裏側には、当時中国の女性解放、性的解放運動の影が潜んでいる。明清中国では、性の問題は厳格な道德意識によって制限されていたとはいえ、ジェンダーにおける非対称性も大きかった。20 世紀初頭に入って、セクシュアリティをめぐる議論は盛んに行われ、女性の解放も大きな注目を集めていたが、当時の女子大生にとって、そのような議論は如何なる反響を引き起こしたのか、本稿を通して、その一端を明らかにした。

掲載雑誌：東京大学比較文学・文化研究会『比較文学・文化論集』、31 号、2014 年 3 月、31－35 頁。

以上